

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270135108
法人名	社会福祉法人 小榊アスカ福祉会
事業所名	グループホーム ひばり
訪問調査日	平成 20 年 12 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 3 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270135108
法人名	社会福祉法人 小榊アスカ福祉会
事業所名	グループホームひばり
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市みなと坂1丁目6番35号 (電 話) 095-834-4141

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年12月25日	評価確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.8 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円若しくは33,000円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成 20年 11月現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.6 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	すがさきクリニック、中島医院、かわぐち歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表の思いを込めた「地域でお年寄りが安心して暮らすことができるよう全力で支援します」という理念をもとに、地域住民との関わりを大事にして、利用者と共に笑顔を絶やさず安らぎのある暮らしを支援するよう日々努力している。
職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、その日、その時の思いや訴えをしっかりと受けとめることを大事にして、職員間の連携を図りながら、きめ細かい支援を実践している。
また、職員の研修等にも積極的に取り組んでいるほか、運営推進会議、地域消防団との避難訓練、地域住民との交流も盛んに行っており、日頃から理解と協力が得られており、まさに地域に密着したグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価における課題となっていた介護記録などの様式や記入の仕方について、全職員で検討しながら改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で日々のケアの振り返りや見直しをしながら、お互いに意見や気づきを出し合い、それぞれに自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年は、5回の運営推進会議を開催しており、事業計画や活動報告、講演会や行事への参加依頼、職員異動の報告などを行い、意見交換を行っている。委員からは活発に意見が出され、それらについて検討しながらサービスの向上に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や運営推進会議、家族の訪問時に出された意見や要望などについて、全職員で話し合いケアサービス等に反映できるよう取り組んでいる。家族からの意見や苦情などは、どんなに小さい事でも気軽に言ってもらえるよう、家族が話しやすいよう職員から声をかけるように配慮している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、夏祭りなどの地域行事に積極的に参加して楽しんでいる。近くの幼稚園児や小・中学生が体験学習や行事などでホームを訪れることもあり、ふれあう機会も多い。また、毎日食材の買い出しに出かけるスーパーの店員や地域の人々と挨拶や会話を交わし、顔馴染みになっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域でお年寄りが安心して楽しく暮らすことができるよう、全力で支援します」という法人理念を基に、利用者が地域の中でのおんびりと安心して生活でき、家族や地域の人達がいつでも気軽に遊びに来られて、いつも笑顔で楽しく過ごせるように、グループホーム独自の理念を全職員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が参加するカンファレンス時に唱和し、理念の共有を図っている。職員は常に笑顔で接し、利用者一人ひとりの思いをしっかり受けとめることを大切にしながら利用者本位の介護の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、夏祭りなどの地域行事に積極的に参加して楽しんでいる。近くの幼稚園児や小・中学生が体験学習や行事などでホームを訪れることもあり、ふれあう機会も多い。また、毎日食材の買い出しに出かけるスーパーの店員や地域の人々と挨拶や会話を交わし、顔馴染みになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果については全職員で検討し、介護記録などの様式や記入方法などについて改善に取り組んだ。自己評価についても、全職員で日々のケアの振り返りや見直しを行いながら意見を出し合って取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、5回の運営推進会議を開催しており、事業計画や活動報告、講演会や行事への参加依頼、職員異動の報告などを行い、意見交換を行っている。委員からは活発に意見が出され、それらについて検討しながらサービスの向上に活かしている。		

長崎県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課にはホームの行事の案内や広報紙を届けており、行き来する機会もある。また、介護相談員の受け入れにも取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問も多く、その都度口頭で利用者の日々の暮らしぶりを伝えている。ホーム便りや金銭管理状況など、個々に合わせて定期的に報告をしている。また、職員異動については運営推進会議やホーム便りにて報告している。行事などの写真は利用者一人ひとりアルバムにしており、喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会、運営推進会議などで出された意見や要望・苦情については、解決に向けて全職員で話し合い、ケアサービスに反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の担当職員を決めており、やむを得ない退職や異動がある場合は、少しでもダメージを防ぐよう引継ぎの時間を十分にとり、一人ひとりに合った配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は内部研修、外部研修ともに、職員が参加しやすいように積極的に取り組んでいる。職員は、受講後報告書をまとめており、他の職員に報告する機会も設けている。また、報告書を回覧して全職員で共有できるような体制をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、グループホーム協議会の研修会などに積極的に参加している。また、他のグループホームとの相互訪問を実施する等交流の機会もあり、お互いの活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスや小規模多機能型居宅介護の利用によって、入居するまでに馴染みの関係ができています。また、家族と共に見学に来てホームの雰囲気馴染んでもらい、本人、家族と相談しながら、安心し、納得してもらった上でサービスを開始するように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりに寄り添い、日頃の会話や表情から、喜びや不安、苦しみなどを把握するよう努めている。また、利用者から教えてもらったり、励ましてもらったりすることも多く、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話をゆっくり聞いたり、日々の行動を観察したりして本人の思いや意向の把握に努めている。利用者のちょっとした動作やいつもより寂しそうにしている表情、雰囲気などが見受けられると、職員間で連携してドライブに誘うなどして気分転換できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者それぞれの担当職員は、家族からの意見や要望などを聞き、他の職員から日頃の気づきや記録に残された状況、意見などを採り入れて、それらを反映した個別の具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に変化がない時も3ヶ月に1回は定期的に見直しをしている。計画通りの取り組みができているかどうか細かくチェックし、モニタリングや評価を活かして、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、かかりつけ医の受診支援や帰宅、お墓参りに同行するなど、家族と相談しながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を大切に、ほとんどが以前からのかかりつけ医を受診している。また、ホーム長が看護師として常駐しており、かかりつけ医と連携しながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に家族へ説明している。看取りについてはまだ経験していないが、今後は、かかりつけ医や協力医との連携のもと、全職員で情報を共有し、家族と協力しながら、支援体制を検討したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉かけや対応に努めている。食べこぼしや排泄の失敗、突然の行動障害等にも決して否定などせず、優しく見守っている。個人情報についても、記録等の記入や保管の場所を一定に決めており、全職員でその徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の時間など一日の流れはゆったりとしていて、利用者一人ひとりのペースに合わせて柔軟に支援している。起床時にゆっくとコーヒーや牛乳を飲んだり、食材の買い物に出かけたり、希望に合わせてそっと寄り添い散歩をするなど、職員は、本人が納得でき、その人らしく生活できるよう、見守り、支援している。		

長崎県 グループホームひばり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が好きな利用者が毎日積極的に野菜の下ごしらえをするなど、利用者一人ひとりの得意なことを活かしながら、楽しんで食事の準備や後片づけなどを行っている。食事のときは、職員も一緒に食卓を囲み、会話も弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回を目安に、利用者の希望や体調に合わせて支援している。仲のよい利用者同士一緒に入ったり、同性の職員が介助したりと柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や得意分野で楽しみながら役割や気晴らしをしてもらえるよう支援している。洗濯物干し、調理の下ごしらえ、裁縫など、お願いできる仕事を頼み、職員から感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一緒に毎日の食材の買い出しに出かけたり、希望に合わせて散歩等に出かけたりできるよう、安全に配慮しながら支援している。また、近くの公園などにドライブに出かける等、なるべく希望に副よう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はなく、玄関は日中開放し自由に入出入りできるようにしている。玄関ドアに鈴をつけており、人の出入りに職員がいつでも気づくようにするとともに、利用者の見守りを徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防団と合同で避難訓練や応急手当の勉強会などを実施している。また、ホーム独自でも定期的に夜間を想定した訓練などを行っている。防災担当職員が、毎月防火対策点検を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事・水分摂取量など細かく記録をとり、一日を通して確保できるよう工夫している。特に水分摂取については、一人ひとりの体調や習慣に合わせて支援しており、細かく記録して夜勤者への確実な申し送りを徹底し、一日の水分摂取量を確保できるよう連携を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中利用者が集うリビングは、明るく広々としており、ゆったりとしたソファや食卓を配置し、利用者が思い思いの場所で寛いでいる。また、利用者同士で談笑したり、昼の間に自由に横になったりして、居心地よく過ごせる共用の空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には日用品や使い慣れた和ダンス、ソファなどが持ち込まれ、利用者の身体状況や希望に合わせて配置している。仏壇を持ち込んでいる利用者もおり、毎日々花を供えるなど、利用者が安心し、快適に過ごせるよう支援している。		